

平成28年度春期

スーパーバイザー士筆記試験

平成28年8月3日(水)実施

13:40～14:40

3. 財務・問題解決

(該当講義 講義 . . .)

答案作成上の注意

- ◇ 解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名を記入してください。
- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあげないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は60分です。
- ◇ 試験開始後30分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

財務諸表の知識(税務含む)

【問題 1】

次の①～⑩の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成してください。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととします。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけてください。

1. 当社は 01 年 4 月 1 日に資本金 9,000,000 円で設立した。決算日は 3 月 31 日。今期の事業年度は 01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日（以下、「今期」という）
2. 今期の売上高は 100,000,000 円であり、このうち 5,000,000 円は未回収である。
3. 今期の仕入高は 35,000,000 円であり、このうち 12,000,000 円は未払いである。
4. 02 年 3 月 31 日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで 600,000 円分あった。
5. 今期の役員・従業員に対する給与は総額で 30,000,000 円であった。
6. 01 年 4 月 1 日に金融機関から 30,000,000 円借り入れた。返済期間は 7 年。今期中に返済した元本の額は 4,300,000 円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息 600,000 円を支払った。
7. 固定資産（器具備品）の購入価額は 30,000,000 円であり、01 年 4 月 1 日から事業用として使用している。
8. 上記⑦器具備品の耐用年数は 10 年（定率法による償却率は 0.20）。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
9. 今期に支払った家賃は 10,000,000 円。
10. その他今期の諸経費として 7,000,000 円支払った。

【問題 2】

次の 1～10 の文章の記述が正しい場合には○を、誤っている場合には×を解答欄に記入してください。なお、解答に際しては下記【参考①】【参考②】を使用しても良いこととします。

【参考①】給与所得控除額表（給与所得者の概算経費の速算表）

給与収入金額	給与所得控除額
162.5万円以下	65万円
162.5万円超180万円以下	給与収入金額×40%
180万円超360万円以下	給与収入金額×30%+18万円
360万円超660万円以下	給与収入金額×20%+54万円
660万円超1,000万円以下	給与収入金額×10%+120万円

【参考②】個人所得税率表（速算表）

所得金額	所得税率	控除額
195 万円以下	5%	0 円
195 万円超 330 万円以下	10%	97,500 円
330 万円超 695 万円以下	20%	427,500 円
695 万円超 900 万円以下	23%	636,000 円
900 万円超 1,800 万円以下	33%	1,536,000 円

- 1 年間の給与収入が 103 万円の人、給与所得控除額が 65 万円であるため、給与所得額は 38 万円となる。そしてすべての納税者に基礎控除額 38 万円が適用されるため、課税所得金額は 0 円となり、所得税額は 0 円となる。
- 1 年間の給与収入が 695 万円の人、給与所得控除額は、962,500 円である。
- 1 年間の給与収入が 400 万円の人、給与所得控除額は、1,340,000 円であり、給与所得金額は、2,660,000 円である。
- 株式会社 X 社は、平成 28 年 6 月 15 日に 1 台 50 万円の機械装置を取得して事業の用に供した。この機械装置を減価償却する際に、選定できる減価償却方法は定額法のみである。
- 法人の課税事業者は、課税期間の末日の翌日から 2 カ月以内に消費税及び地方消費税の確定申告書を提出し、消費税を納付しなければならない。
- 所得税の確定申告期限は、所得税の計算期間である 1 月 1 日から 12 月 31 日の翌年 2 月 16 日から 3 月 15 日までである。この確定申告による所得税の納付期限は、原則として確定申告期限と同じである。
- 金銭等の受取書（第 17 号文書）である領収書を発行する際に、客から「金額は書かないでください」と言われたので、金額記載欄に金額の記載はしなかった。この場合は、印紙税の非課税金額 5 万円未満であっても 200 円の収入印紙を貼付し消印をして客に領収書を渡さなければならない。
- 地震により住宅や家財などの生活に通常必要な資産に損害を受けた場合には、雑損控除の適用を受けることができる。
- 間接税の代表的な税目は、所得税、法人税、相続税であり、納税義務者と税金負担者が同じである。
- フランチャイズ本部が、基本的に加盟店に返還を要しない加盟金や契約金を加盟店から受け取った場合には、その加盟金や契約金は、フランチャイズ本部の収入として計上される。

計数管理の知識

【問題 1】

次の文章を読み、正しいものに○、誤りのあるものに×を記入してください。

1. 売上高営業利益率を向上させるためには、売上高経常利益率を高めれば良い。
2. 商品の廃棄ロス削減は、売上原価の低減に結びつかない。
3. 営業外費用の低減は、販売費及び一般管理費を低減すれば良い。
4. 棚卸資産回転率を低下させる原因は、過剰在庫や商品の売れ残りが考えられる。
5. 損益分岐点比率は、数値が高いほど良いと判断できる。
6. 流動資産より流動負債の金額が大きくても、支払能力に問題はないと判断できる。
7. 当座比率は、数値が低いほど良いと判断できる。
8. 固定比率は、100%以上が理想である。
9. 固定長期適合率が 80%以下だと、その会社の支払能力に問題があると判断できる。

【問題 2】

下記のフランチャイズ加盟店A店（カフェと書店の複合新業態）の月次損益計算書を参照し、次の文章の空欄に適切な記号（大文字のアルファベット）を下記の語群より選択し解答欄に記入してください。

科目	金額(円)	構成比
月次売上高	2,675,000	100.0%
売上原価	1,230,500	46.0%
売上総利益	1,444,500	54.0%
水道光熱費	80,000	3.0%
人件費	600,000	22.4%
減価償却費	113,000	4.2%
地代家賃	200,000	7.5%
広告宣伝費	80,000	3.0%
ロイヤルティ(売上高×5%)	133,750	5.0%
その他経費	100,000	3.7%
営業利益(オーナー人件費含む)	137,750	5.1%

損益分岐点比率は、現状の売上高から見た（ ① ）の割合である。A店の損益分岐点比率は、売上原価とロイヤルティを変動費、ロイヤルティ以外の販売費及び一般管理費を固定費とし、小数点第 2 位を四捨五入すれば（ ② ）になる。したがって、安全余裕率は（ ③ ）になる。また、A店の変動費率及び固定費に変化がない前提で、月間営業利益 40 万円を達成するためには、目標売上高は（ ④ ）が必要になる。

A 変動費	B 固定費	C 損益分岐点
D 89.5%	E 79.5%	F 10.5%
G 20.5%	H 3,084,314 円	I 3,210,204 円

問題解決手法

【問題 1】

以下の問いに記号で答えてください。

1. 問題にはいくつかの型がありますが、以下の記述で正しいものを選んでください。
 - (ア) 発生型問題とは、現状をもっと良くしたいというところから生じる問題である。
 - (イ) 探索型問題は、原因志向型問題とも呼ばれている。
 - (ウ) 設定型問題とは、現在設定している目標との差異が生じた場合の問題を指す。
 - (エ) 未達問題は、設定型問題のうちのひとつのパターンである。
 - (オ) 回避問題は、設定型問題のうちのひとつのパターンである。

2. 問題を把握するために必要なものはどれか、以下から選んでください。
 - (ア) あるべき姿（目標）
 - (イ) 原因
 - (ウ) 現状
 - (エ) 課題

3. MECEになっていないのはどれですか？
 - (ア) 飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。
 - (イ) 飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。
 - (ウ) 飲み物は、お酒と炭酸飲料に分解できる。

4. 定量的に分解する場合、正しい式はどれですか？
 - (ア) $\text{売上高} = \text{客数} \times \text{客単価}$
 - (イ) $\text{営業利益} = \text{売上総利益} - \text{固定費}$
 - (ウ) $\text{売上総利益} = \text{売上高} - \text{変動費}$

5. 問題を絞り込む方法について以下の記述で正しいものはどれですか？
 - (ア) 時系列や他店との比較は、絞り込む際の視点として有効である。
 - (イ) 自店の問題なので、競合や他店との比較はあまり有効ではない。
 - (ウ) KPIは、大企業には有効だが、中小のチェーンにはあまり役立たない。

6. 原因究明について以下の記述で間違っているものはどれですか？
- (ア) 原因は問題を裏返すことで容易に究明できる。
 - (イ) 3C分析は、原因究明のフレームワークとして有効である。
 - (ウ) 原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。
7. 原因⇒問題発生原則について、以下の記述で正しいものはどれですか？
- (ア) 売上が低下したので賞与が削減された。
 - (イ) 業務改善を行ったので売上が向上した。
 - (ウ) テレビで自店のことが取り上げられたので客数が増加した。

【問題2】

以下の文章の空欄に正しい言葉を語群から選び、記号を記入してください。

問題解決を図るうえで、解決策をいくつか列挙した中から優先順位の高いものを選択する際には、(①)、コストバランス、(②)、成果度合い(効果度)、(③)をそれぞれ評価して絞り込んでいきます。

チェーンとして、問題解決のノウハウ化を進めるためには、問題解決の(④)と成果を記録に残し、(⑤)にかかわらず組織的に(⑥)を行う体制を整備することが重要です。

- | | | |
|---------|----------|---------|
| A 結合改善 | B リスク | C プロセス |
| D 実現可能性 | E アウトプット | F 信用度 |
| G スピード | H インプット | I 成功・失敗 |
| J 大・小 | K 情報共有 | L 取り組み |